

透析医のひとりごと

「透析黎明期の開業奮闘記」

安藤義孝

昭和52年（1977年）7月18日、35歳の時、妻の公子医師と二人三脚で、透析専門クリニックを故郷の群馬県高崎市で開業しました。援軍のない敵地に降りた落下傘兵の心境でした。

当時、群馬県の透析医療は腹膜透析が主流であり、血液透析は大学病院と2~3の病院で小規模に施行していたようです。後にわかったことですが、当時群馬県は人口比で血液透析設置台数は日本で最低でした。

開業する年の3月頃に、妻が以前に前橋日赤内科に派遣されていた誼で、腎不全患者さんの紹介依頼に訪れたところ、今現在でも腹膜透析患者が複数人治療中で、今にも死にそうだから早く血液透析をやってくれと、私どもの透析クリニックは期待されているんだと強く感じました。

一刻も早くクリニックを完成させてくださいと、工事関係者を急かせて、昭和52年7月18日にやっと透析が施行可能となりました。外装工事中で庭はぐちゃぐちゃでしたが、第1回透析を施行することができました。スタッフは、東京女子医大腎センターの太田和夫先生の指導下で技術を磨いたテクニシャンの吉田智君と奥さんの看護師の吉田ラク君が中心で、女子医大腎センターに群馬県から通院していた4名の患者さんが一セットで動き出しました。

透析開始する1週間位前、前橋日赤の内科医を再び訪れて、透析開始日の話をしたところ、3月時点で紹介しようと思っていた患者さんは皆死亡していました。大学生や10代の女子であったと記憶しています。がっかりしていたところ次の言葉があり、“その後に4名の腎不全患者が発生し、透析を待っていますからすぐ紹介します”とのことでした。

開業透析開始してその年の11月30日までの4カ月半に新規導入例数は36名を数えました。新規導入例は、尿毒症による昏睡状態、溢水による呼吸困難症例が大多数でした。典型的な症例をあげれば、肺水腫で口や鼻からピンク色の泡を吹き出して救急車で緊急来院した人などはすぐに気管内挿管して、加圧、吸引でレスピレータに接続し、急速除水で救命した例や、顔が真丸く風船のように異様に張っていて、針を刺せば水が吹き出しそうな人に14~15kg除水したところ、妙齢の美人の顔が出現したのにはビックリしたりして、急性期の治療はダイナミックな躍動感がありました。

急性期の対応が済んでからの指導は、食事指導が肝要となります。それまでの県内施設の食事指導は、無尿なのだからと水と食事摂取制限も厳しく、その結果として、極端な栄養失調であり、風邪を引くと、すぐ肺炎にまでなってしまう簡単に亡くなっていました。腎不全は不治の病であったのです。

私どもは、女子医大の太田和夫先生に教えて頂いた女子医大方式で指導しました。すなわち、飲水は制限

するが、食事をもっとどんどん食べさせること、食事の老廃物は透析時間を長くしたり、性能の良いダイアライザーで洗えばよいということです。この指導により、体力がつき気力も亢進し、退院して社会復帰できるまでになった人が続出し、評価が一挙に上がりました。そして県内だけでなく埼玉県北部からも紹介が急増して忙しくなってきました。

太田和夫先生には、2カ月に1回シャント手術に来院して頂き、患者さんに安心感を与えて、当院のレベルアップに寄与して頂きました。シャント手術後は患者さんへのムンテラを素早く済ませて、太田先生と同伴で伊香保温泉にルンルンと直行する。楽しい酒席の接待が用意してある由でありました。泊る旅館も毎回違うところがいいとの御要望で、伊香保温泉の源泉傍の旅館から始まり、幾多のホテルを経て最下方の旅館まで泊ったところで自然に伊香保温泉憩いの旅は終了していきました。

当院はさらに、体外浄化（direct hemo perfusion; DHP）法を駆使して、農薬中毒や、眠剤中毒の治療にも係わるようになり、体外循環の技術は治療の範囲を広げていきました。群馬県は全国一の農薬中毒県であり、最盛期は150例/年にも達し、24時間体制で胃洗浄、体外循環を行いました。時には農薬のパラコートを飲ませて保険金を獲ようとした殺人事件にも巻き込まれ、刑事による事件聴取のうえ参考人調書をとられてしぼられたこともありました。

職員も急速に増え、教育やチーム訓練が必要となり、透析器械会社の方をお願いして、ホンダの子会社の職員団体訓練に加えて貰い精力的に取り組みました。泊り込み2泊3日の訓練を年3~4回行いました。若いスタッフ諸君にはストレス発散の機会にもなったようでした。

以上、開業前後の数年間のクリニック時代の思い出を書き述べてみました。開業当時は、急性期症状の対応に追われていましたが、透析患者さんの経過が長期化するとともに、Ca, P代謝、心血管、脳血管対策、糖尿病などで、現在の透析患者さんの治療は高度な知識と技術を要求されるレベルに達していて、すでに若い医師に任せる時代になりました。

では皆さん、透析医療の今後の発展をよろしくお頼み申し上げて、筆を置きます。

日高病院（群馬県）